

令和8年度 学校評価 目標設定

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	児童生徒一人ひとりの発達段階や障がいの状態に応じた学習課題の設定、指導方法の工夫、教材・教具の開発を推進し、児童・生徒が「すぐにわかった!」「自分でできた!」を実感できる授業を実践する。 授業において、ICT機器の1人1台専用端末を積極的に利活用し、学びのツールとして有効な実践例を積み重ねる。	①アセスメントを根拠に、一人ひとりの実態に応じた課題の設定、指導方法や教材・教具の工夫を推進し、児童・生徒が「すぐにわかった!」「自分でできた!」を実感できる授業実践を継続する。 ②児童・生徒の実態に合わせてICT機器に触れる授業を設定し、実践を重ねる。授業内容を家庭と共有し、学びの機会を積み重ねる。	①アセスメントを計画的に実施するとともに、個別教育計画作成時に活用する。校内研究で授業のアイデア集等を作成する。 ②ICT機器に触れる授業実践について、研修や校内研究で共有して実践につなげる。実践内容を面談や授業参観等で発信し家庭と共有を図り、活用の幅を広げる。	①アセスメント内容が個別教育計画に反映されて適切な課題設定が行われたか。校内研究でアイデアを共有し、児童・生徒が「すぐにわかった!」「自分でできた!」を実感できる授業実践ができたか。 ②児童・生徒の実態に合わせてICT機器に触れる授業を設定するとともに授業内容を家庭と共有し、学びの機会を積み重ねることができたか。
2	児童・生徒 指導・支援	児童・生徒一人ひとりが互いの人格や多様性を尊重し、自他を大切にす心と互いにかかわりながら生活する力を育てる。	①児童・生徒が互いに関わる様々な場面を通して自他を大切にする心を育てる。 ②発達段階に応じたSNSの活用の仕方を学び、相手を意識した利用方法を身につける。また、ネットリテラシーの学習を通じて、自分以外の相手を尊重する力を育てる。	①日常の中で、校内で児童生徒同士が幅広くかかわるとともに、授業での発表や作品交流等で互いを認め合う活動を継続する。 ②学校の取り組みを保護者と共有し、家庭と連携しながら進める。また、保護者向けの研修会やグループ協議等で見識を広げる。また、取り組みやすい教材を使ったネットリテラシーに関する授業を行う。	①児童・生徒が互いに関わる様々な場面を通して自他を大切にする心を育てることができたか。 ②適切なSNS活用についての理解を深め、相手を意識しながら、学習や余暇に適切に利用することができたか。また、ネットリテラシーに関する知見を増やし、相手を尊重する力を育てることができたか。
3	進路指導・ 支援	成功体験を積み上げる教育活動により自信や意欲を高めて、将来の自立と社会参加や、自分らしい生き方を見つけるための支援を行う。	①活動への主体的な参加を通して、1人で、または仲間と協力しながら成功体験を積み重ね、自信や意欲を高める。 ②児童・生徒・保護者のニーズに合わせた進路学習会や見学会等を実施し、児童・生徒が将来の自立と社会参加、地域生活に向けてイメージが持てるように指導、支援を行う。	①他学部や他部門と連携を図り、様々な活動の場を設定することで、1人でまたは仲間と協力しながら主体的に取り組める教育活動を計画し、実践する。 ②保護者向けの事前・事後アンケートにより、ニーズに合った内容で実習や見学会、進路学習会等を実施する。	①ひとりでまたは仲間と協力して主体的に教育活動に参加し、自信や意欲を高めることができたか。 ②各学部のニーズに合わせた説明会や見学会等を実施できたか。児童生徒が、将来の自立と社会参加のイメージを持つことにつながる指導、支援を行うことができたか。

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
4	地域等との協働	<p>地域社会を実践的な学びの場ととらえて、日々の学習で培った力を地域社会への貢献活動として発揮するなどの取組を教育課程に位置付けて実践する。</p> <p>地域に開いた学校行事を、地域と連携・協働して企画する行事に発展させ、継続する。</p>	<p>①地域社会で学ぶ内容を教育課程に位置づけ、地域資源を活用する。地域に積極的に出ていくことで、学習活動で身に付けた力を発揮する機会を増やす。</p> <p>②職業での作業や販売、芸術活動を中心とした交流を通して、地域と学校との相互理解を深める。</p>	<p>①児童・生徒の地域活動として、今まで実施している施設の活用や地域清掃活動などを継続して実施する。実施回数、実施方法などを検討し、積み重ねが出来るよう計画する。</p> <p>②地域のイベントへの作品展示や演奏、校内実習での出張作業等を実施し、学習の成果を発信する機会を設ける。</p>	<p>①地域資源を活用することができたか。継続して実施している活動において日々の学習で培った力を発揮することや、適切な回数や内容で実施することができたか。</p> <p>②地域のイベントへの参加や職業の授業において、地域と学校との相互理解を深めることができたか。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>「児童・生徒への丁寧なかかわりのスタンダード」を活用し、児童・生徒が安心して学ぶことができる学校にするとともに、取組の好事例を共有する仕組みを構築して、短期間で内容の充実・更新を図る。</p> <p>災害時や非常時に備えて、関係機関と協力して訓練・研修等に取り組み、児童・生徒が安全に学ぶことができる環境を整える。</p>	<p>①業務改善により児童・生徒の話をする時間を確保するとともに、「丁寧なかかわり」について保護者と実践内容を共有して児童・生徒が安心して学べる学校にする。</p> <p>②関係機関との連携のもと、災害時・非常時を想定した訓練・研修を実施し、危機管理体制の充実を図ることで、児童・生徒が安全・安心に学ぶことのできる教育環境を整備する。</p>	<p>①保護者と職員との懇談会及び全校職員間で児童・生徒についての話し合いを実施する。業務改善により職員が児童・生徒の話をする時間を確保する。</p> <p>②災害時等スクールバス駐車場所の提供について関係機関等と協定を結ぶ。児童・生徒がスクールバスに乗車している実際の状況を想定した訓練を行う。</p>	<p>①保護者と職員との懇談会や、全校職員間で児童・生徒について話し合いを行い、互いに理解を深められたか。業務改善により職員が児童・生徒の話をする時間を作ることができたか。</p> <p>②田園調布大学その他近隣の機関に依頼し、パートナーシップを結ぶことができたか。実際の状況を想定した訓練により、関係職員が役割を理解し、情報共有や誘導などを連携して行うことができたか。</p>